

令和元年 11 月 22 日 (金)
東京ガーデンパレス 2 階 天空

全国医学部長病院長会議
令和元年度 11 月理事会
議事録

一般社団法人 全国医学部長病院長会議

令和元年度 11月理事会 議事録

1 開催年月日： 令和元年 11月 22日（金）13時から16時まで

2 開催場所： 東京ガーデンパレス 2階 天空

3 出席者総数： 49名

理事 23名

山下 英俊（会長）	藤原 祥裕（副会長）	
三浦 哲嗣	八重樫伸生	秋田 弘俊
村越 隆之	齊藤 延人	北川 昌伸
井田 博幸	武田 正之	本田 孝行
内木 宏延	小寺 泰弘	村垣 泰光
木村 正	東田 有智	黒沢 洋一
赤池 雅史	井川 幹夫	木内 良明
矢野 博久	河野 嘉文	山下 秀一

監事 2名

別所 正美
岡村 吉隆

顧問 1名

新井 一

相談役 1名

稲垣 暢也

委員長・座長 13名

事務局等 9名

4 欠席者総数： 10名

理事 7名

長谷 和生	浅利 靖	瓜田 純久
田邊 一成	岩間 亨	塩田 浩平
赤司 浩一		

委員長・座長 3名

事務局長より、本日の理事会定足数を満たしていることを報告後、山下会長が議長となり進行した。

5 会長報告：

前回の平成31年4月25日理事会以降から本日までの活動等について報告された。

6 確認事項：

平成31年4月理事会議事録について、監事より了承されたと報告があった。

7 報告事項：

1) 各専門委員会委員長・各ワーキンググループ座長報告

(1) 医学教育委員会

シームレスな医師養成に向けた改革全体案に基づき、卒前・初期研修にできることは前倒しし、真の臨床能力のある医師を早期に供給、Post-CC OSCEのあり方や負担軽減について、卒前卒後の一体的評価に関するEPOC2について、卒後臨床研修の診療科ローテーションから獲得目標型への切り替え等について、各WGと共に現在議論を進めている事項について報告がされた。

また、議員連盟の卒前卒後のシームレス化に関する活動状況の情報共有が行われた。

なお、JACMEの評価に関し、評価を受審した会員医学部長宛にアンケートを実施する予定であり、意見等があればいただきたい旨の依頼があった。

(2) 大学医学部入学試験制度検討小委員会

昨年度、AJMCから規範を出し、2019年の入試に関しアンケートを実施したこと、調査結果に基づき、分析を行っており、報告書として取りまとめていくことが報告された。

調査結果の要点として、男女別の合格率は、国公立大学は男子学生の合格率が高いが、私立大学は、今年の春は女性と男性と逆転している大学もあり、女性の合格率が高くなってきていること、学士編入学試験について、もともとは研究者あるいは基礎医学者等々を育成するための枠だったが、その目的にそぐわなくなってきたということがかなりわかってきたこと、採点の基準について、男性と女性に差をつけるとか、そういうものなくきちんとしていたこと、大学の理事長や学長等が一人で決めているというのは、追加合格者を出すと、どんどん教授会を通らないで行ってしまうということがあるが、今年の入試ではきちんと守られていたことが説明され、今後分析結果を文書化しAJMCとして公表していくことが報告された。

(3) 医師養成のグランドデザイン検証WG

平成19年、28年とAJMCからの提言としてグランドデザインを記した小冊子を発行しているが、28年の発行以降、共用試験の公的化、Student Doctorの法的担保あるいはPost-CC OSCEの意義づけといった課題あるいは卒後臨床研修の問題等々、大きく変化してきている。そこで医学部の入学から専攻医までシームレスな流れの中で医師養成を行い、専門医教育、生涯教育につなげていくというグランドデザインを改めて提案すべく議論を進めている旨報告された。

(4) 国家試験改善検討WG

昨年、第112回から、3日500題が2日400題になったこと、学生アンケートによると、「満足」「少し満足」と合わせると45%程度であるが、良質の問題があるということに関しては少し増えていること、医師の国家試験が受験生にとって過重であるというのは、45%が「そう思う」ということであるが、国家試験のボリュームが適当と答えた方が8割ぐらいいたこと、また、今後の国家試験の問題を作成するときに、参考にしてほしいということで、毎年、国家試験のことに関して要望書を提出しており、文科省の医学教育課と厚生労働省医事課試験免許室に概要を説明したことについて、岩間座長に代わり山下会長より報告が行われた。

(5) 卒後臨床研修検討WG

卒後臨床研修に関するアンケートを実施し、大学病院の医師1927名、会員大学の病院長は66名、大学以外の病院医師1757名という多数の方、また様々な層から回答を得ることができた旨報告された。

現在、病院別、年代別、診療経験別あるいは地域別といった様々な切り口で検討、評価を行っていることが報告された

その中で2004年（平成16年）に導入されて必修化された臨床研修制度により、以前の研修制度と比べて初期研修修了後の医師の質、診療能力は向上したかどうかという質問に対して、「そう思う」という人が14.5%のみであり、「ややそう思う」を入れても46.5%で半数を割っていたことが紹介され、今後の臨床研修制度のあり方について、提言も含めて報告書をまとめていくことが報告された。

(6) 共用試験検討委員会

来年度からPost-CC OSCEが正式実施されることから、それに対応するためのCATOとの交渉経緯及び論点、合意内容等が報告された。

Post-CC OSCEの位置づけについて、卒業判定に取り入れるかどうかは大学が行うということで、CATO側からの指示ではないということが合意できていること、実施内容については、機構課題3題を維持すると、大学独自課題は0でもいいし、3題ぐらいいあってもいいということで合意していること、受験料については、受験生1人当たり2万円ということであるが、システムのセットアップ料などは、5年後にはかからなくなるだろうと考えて、5年後には見直すことが確認取れてはいるものの、受験料の積算根拠らしきものはあるが、必ずしももともと積み上げられているようなものではなくて、初めに値段ありきのような印象を受けていることが報告された。

また、評価者やSPの確保をどうするのか、各大学が負担しているお金はどうするのかという課題があり、継続して交渉していくことが報告された。

なお、身体障害者の方の臨床実習前のOSCE受験について、CATO側は対応できないということで、医学部に入学したにもかかわらず、CATOの実施する臨床実習前のOSCEが受けられないという事態が生じていることが説明され、山下会長とも相談し、大学独自の判定を共用試験検討委員会で評価させていただき、その上でStudent Doctorの称号を授与するという対応をしていきたい旨、報告さ

れた。

(7) 大学病院の医療事故対策委員会

今年の6月の日本医師会雑誌に「大学病院の医療事故調査制度への対応」、副題は「本院と分院の支援状況」として、掲載された旨の報告があった。

続いて2019年アンケート結果の報告が行われた。大多数の病院で都道府県医師会との連携体制について円滑に展開していること、医療事故調査制度という名称については、誤解を招くことから実務上は、別の呼称をつけてはどうかということで医療安全調査機構へメッセージを発信していきたい旨の報告があった。

今後、医療事故に関連した医療従事者に対するケアの問題を少し体系的にとらえてみようということでアンケートを考案して、これから実施していく予定であることが報告された。

(8) DPC（包括評価支払制度）に関するWG

DPCに関しての来年の診療報酬改定に対しての要望に関し、各関係団体と一緒に提出したことが報告された。内容としては、小児入院医療、医師の働き方改革への対応、急性期病院に関する病棟管理栄養士、特定入院料の算定期間の通算ルールの見直し、小児入院医療管理料算定における無菌治療室管理加算について要望した旨、小山座長に代わり山下会長より報告が行われた。

(9) 経営実態・労働環境WG

2年に1回実施している経営実態に関する調査の概要がまとめその内容について報告が行われた。

大学病院の意識として、前回と同様「大体よい」と「悪い」が五分五分という状況であったこと、大学病院の医師の勤務実態に関連して、各種手当については、時間外勤務手当の支給がしっかり行われてきていることもあり、むしろ手当を出している病院の数が減っている可能性があるということ、労基署の指導件数が明らかに増えているということ、2018年度診療報酬改定の影響、病床機能報告に関すること、大学病院本院の収入と支出について、医業収支差額としては国立、公立、私学、どこも赤字であり、それに補助金等を入れて、何とか平均として黒字になっているという状況であったことなどが報告された。

また、今回働き方改革に関連して、厚労省の検討会から出た医師の労働時間短縮に向けた緊急的な取り組みへの対応状況について、厚労省の調査後どうなったかについて設問項目を加えたことが説明され、労働時間管理の適正化の取り組み状況ということに関しては、まだ検討段階というところが3分の1ぐらいあるということなどが報告された。

(10) 動物実験検討委員会

動物愛護管理法の改正が6月12日に成立し、動物実験については3Rの義務化が改正案から除かれたが、附則では、3Rの義務化を引き続き検討すること、あとは届出制についても検討するというこ

とになっていることが説明され、動愛法は、動物園とかペットのような生涯飼う動物と、実験動物や食肉用の動物、途中で命を絶つような動物と一緒に含んでおり、附則に記載されていることが進むなら、実験動物だけ別法にした方が良いのではとのことで、山下会長と相談の上、委員会の中にワーキンググループに似たようなものを立ち上げながら検討していくことになった旨、報告された。

(11) 臨床研究・利益相反検討委員会

1点目は、会員施設における教員の講師謝礼等の取り扱いに関する件を調査させていただき予定であること、国会でも議論があることから拙速な調査は避けて行っていきたい旨説明があり、意見等があれば、この調査に盛り込んでいきたい旨報告された。

2点目は、臨床研究法が施行されて約1年半がたったので、施行後の会員大学の現状について、臨床研究法の問題点について、厚労省の発出しているQ&Aについてなど調査させていただき予定であることが説明され、問題点については、AJMCとしても、できるだけ申し入れをしていきたい旨が報告された。

(12) 男女共同参画推進委員会

昨年、厚労省の女性医師等のキャリア支援事業に応募して採択され、調査報告書を発刊したところであるが、今年度は調査の中からデータを確認して提言をつくるということで、提言案が作成されたことが報告された。長時間労働の是正、多様な勤務形態を許容する勤務制度の確立、キャリアアップ支援、研究支援等について提言を行うとともに、効果的な取り組み例を抽出し合わせて出していきたい旨の説明がなされた。

山下会長より、他の本提言は幅が広いので専門委員長会に提出し、全体的な整合性をとった方が良い旨の発言があり、本提言案を嘉山専門委員長会委員長へ提出することとなった。

(13) 広報委員会

5月31日AJMC総会終了後に、医師需給、臨床系教員の働き方について、日本専門医機構への提言について、2019年医学部入学試験に関する中間報告について、医学教育改革について、記者会見を行ったこと、8月6日には日本医師会とAJMCの合同で中央医療対策協議会の取りまとめについて等の記者会見が行われた。

また、取材対応として、7月19日と11月12日に「日経ヘルスケア」から取材があり、専門委員会委員長の嘉山先生が、それぞれ医師の働き方改革、地域医療構想について取材を受けた旨が報告された。

今後は、医学部入学試験に関するアンケートの解析を初めとして、重要案件が公表の段階になった時点で、随時記者会見を開いていく予定であること、また来年度に向けて広報誌を作成していく旨が報告された。

(14) 被災地医療支援委員会

前回の台風19号のときの豪雨災害状況、支援状況をAJMCの7支部にお願いして集約したものにつ

いて報告が行われた。今回の台風19号に関しては、被害が局所局所であり、全国7支部を挙げて支援するようなことはなかった旨、説明があり、2011年3月11日以降、被災地の支援と共に被災大学への支援も行っている旨、報告された。

(15) 地域における医師養成の在り方に関する調査実施委員会

今年度の計画について、A、B、Cの3つの事業を進めていることが報告された。

Aは、地域枠の卒業生に対する支援、卒前・卒後の支援体制等をメインに聞くアンケート調査であり、Bは、地域枠学生の転機調査で、地域枠入学生をフォローアップして、どのくらいの人が離脱したのか、実際に地域医療に対する義務を果たしているのか等の追跡調査である。Cについては、地域枠制度についての意見交換会を実施し、現場の皆様、自治体、各大学の地域医療講座等々、実際に地域枠の入学生に対応されている実務者レベルで意見を交換して、アンケートで抽出できないような内容をいろいろと議論していただくための企画であり、報告書に盛り込んでいく予定であることが報告された。

また、離脱率等については、今はデータが少ないため、詳細な解析等まではできていないが、今後データの集積が進めばそれらも可能となる旨の報告があった。

(16) 医学部・医科大学の白書調査WG

例年、1年目に2回会議を行い、1回はアンケートの項目をつくり、2回目はその結果をまとめるということを単純にこれまで繰り返されており、問題点や今後検討しないといけないという課題が会議で提出されても、そのままになる状況であった。

今期は、2年目にこれまでの問題点と今後の展望を考えた白書のあり方を、時間をかけて議論しようと企画し、合宿形式で討論を行った旨報告があった。

これまでの白書調査では、教育者に対するアンケートだけで、学生たちがどう思っているのかという部分がこれまで抜けていたので、大学経由で学生たちの意見も聞いてほしいという白書調査のアンケート項目案を作成し、次期の白書調査ワーキンググループに書面として残して引き継いでいく予定としているので、ご意見等があればいただきたい旨の報告があった。

また、白書の項目について、減らしたい旨の説明があったが、白書は一つの歴史でありエビデンスを残すことでもあるので、どの項目を減らすか等については、理事会で確認したほうが良い旨の発言があり、削減する項目候補については、まとめ次第、理事会に意見を伺うこととなった。

8 その他報告

1) 医療に関する懇談会－日本医師会・全国医学部長病院長会議－

特に日本の医療系において論文の数が諸外国は右肩上がりでもどんどん伸びているのに日本だけが伸びていない。特に生命科学、基礎医学に関しては非常に問題であるが、大学全体で考えたときには、臨床医学においても基礎医学も、特に価値の高い論文を出すのは人であることから、今後、予算の問題、大学の教員が特に国立大学などは定員削減があるが、これは今後の大学の研究力を削ぐものであ

ることから、日本医師会にも提示し、日本の医療・医学を守るためにもアカデミアに人と適正な資金が来るように応援をお願いしたいという旨議論し、依頼したことが報告された。

2) 三者懇談会－文部科学省・厚生労働省・全国医学部長病院長会議

入試、教育改革のことと大学病院の医療事故のことについては、各委員長から報告があったものについて議論されている旨の報告があった。

中央医療対策協議会について、AJMCから嘉山専門委員会委員長に出席していただいているが、その中で、大学が地对協の中で中心的な役割を果たすべきであることを提示し、今後の地域医療対策協議会、地域医療構想のあり方に関して提言をされ、議論した旨の報告があった。

3) 全国医学部長病院長会議・共用試験実施評価機構との意見交換会

齊藤共用試験検討委員会委員長の報告があったとおり、今までのStudent Doctorの前にありましたOSCE・CBTに加えて臨床実習、Student Doctorの課程が終わった後のPost-CC OSCEに関して話し合いを進めてきたことの報告があった。

9 その他

今後の予定に関して、次回の理事会が令和2年4月24日（金）13時から16時30分で開催されること、定例社員総会が、令和2年5月29日（金）10時30分から17時30分開催されることが周知された。以上ですべての議案の審議を終了したので、閉会した。

議事の経過及びその結果を明確にするため、この議事録を作成し、出席代表理事及び監事は下記に記名押印する。

令和元年 11 月 22 日

一般社団法人全国医学部長病院長会議 理事会議事録

議 長
代表理事

山下英俊



監 事

別所正美



監 事

岡村吉隆

